

外来生物市民学習会

「なぜ外来種は生み出されるのか？」

～セイヨウオオマルハナバチのこれまでとこれから～



農業用ハウスでのトマト栽培の受粉に利用されているヨーロッパ原産の「セイヨウオオマルハナバチ」ですが、その一部が野生化し、外来生物として問題になっています。

ここ旭川をはじめ、大雪山麓においても多くのセイヨウオオマルハナバチが飛んでおり、貴重な高山植物が多くある大雪山国立公園へのセイヨウオオマルハナバチの侵入・拡大による植生への影響も懸念されています。大雪山のお花畑を守るためにも、特定外来生物「セイヨウオオマルハナバチ」の現状と、今後の対策について、理解を深めることが必要です。

そこでこの度は、生物多様性保全を専門とする五箇公一先生をお招きし、生物多様性や外来生物問題全般のお話をはじめ、セイヨウオオマルハナバチの課題や防除にむけた取り組みなどについてのお話いただきます。

- 開催日時 平成 28 年 11 月 26 日 (土)
13:30～16:50 (開場は 13:00)
- 開催場所 旭川市科学館「サイバル」 学習研修室
(旭川市宮前 1 条 3 丁目 3 番 32 号)

●参加対象 市民一般

●参加費 無料

●内 容 【講演】＝＝＝
「なぜ外来種は生み出されるのか？～セイヨウオオマルハナバチのこれまでとこれから」
国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 室長 五箇 公一 氏
【報告】＝＝＝
大雪山マルハナバチ市民ネットワーク会員等による現地報告



●参加受付 以下受付先まで、「お名前」「連絡先電話番号」をお知らせください。
【申込受付先】公益財団法人北海道環境財団 (担当：安保)
TEL 011-218-7811 FAX 011-218-7812 E-mail:ampo@heco-spc.or.jp

●主 催 大雪山マルハナバチ市民ネットワーク、大雪と石狩の自然を守る会、公益財団法人北海道環境財団、北海道生物多様性保全活動連携支援センター (HoBiCC)

●協 力 北海道上川総合振興局